

彙 報

会 長 早 田 輝 洋

平成12年度第1回常任委員会

日 時：平成12年4月22日（土）午後2時～午後6時

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室

出席者：早田輝洋（会長）、梶 茂樹（事務局長）、大石正幸、久保智之、坂本
勉、坂本比奈子、清水克正、庄垣内正弘、早津恵美子、松村一登

オブザーバー：田窪行則（編集委員長）、吉田和彦（大会運営委員長）、塩原朝
子（事務局長補佐）

議題

[報告事項]

- (1) 常任委員会の委員が決定した。
- (2) 『学術用語集 言語学編』について、出版元日本学術振興会との間で、出版権設定・契約の更新を取り交わした。契約更新期間は平成12年5月6日から15年5月5日までとなっている。また、本書の今後の改訂の必要性が示唆された。
- (3) 「ドイツにおける日本年」の行事の一環として、2000年2月25、26日、および3月17、18日に開催された、第三回東西言語学会議（Ost-West Kolloquium für Sprachwissenschaft）の後援についてドイツ言語学会と共同で協賛団体となることを了承した。（前常任委員会です承されたものの事後報告）
- (4) 第121回大会（平成12年度秋季大会）の開催校に付いて名古屋学院大学（清水克正氏）から開催受諾の意向が表明された。日程は流動的であるが、11月26日、27日が予定されている。
- (5) 科学研究費補助金審査員の推薦について
日本学術会議より平成12年度科学研究費補助金審査員の推薦依頼があった。
- (6) 日本学術会議の第18期会員の推薦依頼があり、梅田博之氏、上野善道氏を推薦し、了承された。
- (7) 学会に対して、日本学術振興会のナイロビ駐在員の募集があった。

[審議事項]

- (1) 平成11年度決算報告
平成11年度の決算報告があり，了承された（別表1参照）。
- (2) 平成12年度予算
平成12年度予算について具体案を作成した（別表2参照）。
- (3) 第120回大会について
第120回大会（平成12年度春季大会）の準備状況およびプログラムが，吉田和彦大会運営委員長により報告された。また，予稿集バックナンバーの処置について審議が行われ，学会事務を委託している中西印刷㈱における保管場所が限られていることから，2年以上へたものについては学会開催時に無料で配布することとした。
- (4) 各小委員会，作業部会の引継ぎ
以下の案が決定された。
 - ・危機言語小委員会は，委員長およびメンバーの交代の上存続させる。
 - ・夏期講座検討小委員会は，夏期講座小委員会と名称を変更し，委員長，メンバーの交代を行う。
 - ・Pacific Rim Institute 検討小委員会は委員長交代の上，2001年9月まで存続させる。
 - ・大会運営委員会検討小委員会は，第1回委員会で廃止する。
 - ・国際関係作業部会については，前任者と連絡の上，以降の扱いを決定する。さらに，新規に発足した大会運営委員会（委員長 吉田和彦氏）が担当する業務内容についてが審議が行われた。
- (5) 言語学会ホームページ立ち上げについて
松村一登氏によって，学会行事予定の告知や『言語研究』の目次および学会員名簿などをコンテンツとするホームページを今年度末を目標に立ち上げることが提案された。これを受け，氏を中心にホームページ作業部会を発足させることが決定された。
- (6) 次回常任委員会は，9月後半（予定）に開催されることが決定された。

平成12年度第1回委員会

日 時：平成12年6月17日（土）午前10時～午後1時

場 所：千葉大学法経第1会議室

出席者：早田輝洋（会長），梶 茂樹（事務局長），井上京子，梅田博之，上野善道，荻野綱男，尾上圭介，影山太郎，菊池康人，久保智之，窪園晴夫，郡司隆男，小泉 保，坂原 茂，坂本 勉，佐藤昭裕，柴谷方良，清水克正，庄垣内正弘，田窪行則，田野村忠温，田村すず子，柘植洋

一、辻 星児，角田太作，津曲敏郎，西光義弘，林 徹，原口床輔，原田かづ子，樋口康一，日比谷潤子，町田 健，松村一登，松本克己，宮原文夫，村崎恭子，藪 司郎，湯川恭敏，吉田 豊，吉田和彦，澤田治美，橋内 武，金水 敏，長嶋善郎（以上43名）

委任状：22名

オブザーバー：窪菌晴夫（会計監査委員），荻野綱男（会計監査委員），塩原朝子（事務局長補佐）

〔報告事項〕

議事に先立ち、会長の挨拶ならびに会長による新執行部と役員を紹介があった。委員については自己紹介の形をとった。また、大会開催校〔第120回大会（平成12年度春期大会，千葉大学）〕を代表して実行委員長中川 裕氏より挨拶があった。

（1）第18期日本学術会議会員選出について

学会より推薦の上野善道氏（語学・文学部門），梅田博之氏（東洋学部門）は候補者としての認定は受けたが，両者とも選出に至らなかった。

（2）平成13年度日本学術振興会カイロ・ナイロビ研究連絡センター派遣研究者の募集が学会宛にあった。

（3）平成13年度科研費審査委員候補について

日本学術会議から，日本音声学会分と合わせて第一段審査委員を6名，第二段審査委員を2名，候補者として推薦するよう依頼があり，日本音声学会と協議の上，日本言語学会としては，第一段審査委員を4名，第二段審査委員を1名推薦した。

（4）平成12年度科研費「研究成果公開促進費」が前年の51万円より増額され，120万円と決定した。

（5）4月22日に行われた平成12年度第1回常任委員会の内容について報告が行われた。（第1回常任委員会報告参照）

（6）学会宛に第36回国際アジア・北アフリカ研究会議の参加費援助の募集があった。

（7）国立情報学研究所における『学術用語集 言語学編』のデータベース化について

この件について，国立情報学研究所から覚書きが送付され，申し合せ書を交わした。

（8）各委員会等からの報告

（A）大会運営委員会

吉田和彦委員長より，委員会新規発足に当たり，管轄業務について説明があり，さらに，以下の報告が行われた。

- ・第120回大会では発表応募件数54名のうち、40名の発表を採択した。
 - ・第121回大会は11月25日（土）、26日（日）、名古屋学院大学で清水克正氏を大会実行委員長として行うことが決定した。
- さらに、大会を魅力的なものにするため、研究発表のやりかた、シンポジウムの立案について委員に広く意見を求める旨依頼があった。

(B) 編集委員会

田窪行則委員長より以下の報告が行われた。

- ・『言語研究』第118号の編集状況について。
 - ・科研費「研究成果公開促進費」を受けるため、編集委員に外国人を加えること、欧文論文の比率を上げることが必要である。前者については今年度から Christopher Tancredi (東大)、Laurence Schourup (大阪女子大)、Wesley Jacobsen (ハーバード大) の3名を編集委員に迎えている。
- 後者については来年秋に、特定の題目について欧文の投稿を募集する特別号を企画している。将来的には、編集委員を会員に限るという規定を変え、さらには、言語研究への投稿を会員以外にも開くことを検討する必要がある。

(C) 危機言語委員会

坂本比奈子委員長が欠席のため、林 徹委員より以下の報告が行われた。

- ・6月16日に第1回委員会が行われ、委員を確定し、坂本比奈子氏が委員長に選出された。定員20名に対して現委員は17名であるため、増員のため人選中である。
- ・今年度は、独自のシンポジウム・講演会は行わず、特定領域研究（文部省科学研究費補助金「特定領域研究（A）」環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究）など他のプロジェクト・団体との共同企画を行う予定である。
- ・上記の特定領域研究プロジェクトとは、基本的には独立した組織として活動しながらも協力を行っていく。

(D) 夏期講座検討小委員会

委員長西光義弘氏より、委員の交代について報告が行われ、また昨年の夏期講座に対する委員の協力への謝辞が述べられた。続いて、今年度の夏期講座実行委員長、荻野綱男氏より、以下の報告が行われた。

- ・特別講演の講演者が Paul Hopper 氏から、Gilles Fauconnier 氏に変更になった。
- ・夏期講座のホームページを立ち上げ、情報を公開中である。

(E) Pacific Rim Institute 検討小委員会

原田かづ子委員より以下の報告が行われた。

- ・早田委員は会長に選出されたがそのまま委員を続ける。(委員会の任務が来年9月に終了するため。)
- ・2001年アメリカ言語学会夏期講座奨学生募集について、パンフレットを言語学会大会や夏期講習で配付する。対象となる奨学生は10名(会員に限らない)、奨学金の額は1人当たり10万円である。
- ・また、すでに平成11年度第2回委員会で報告してあるように、2001年6~7月にアメリカ合衆国サンタ・バーバラで開催される Pacific Rim Linguistics Institute に学会から派遣される講師4名に対して、往復旅費と滞在費が支給される。

(F) 学会ホームページ作業部会

松村一登氏より、以下の報告が行われた。

- ・学会ホームページ作業部会が第1回常任委員会で発足し、松村氏を中心として作業が進行中である。現在、中西印刷のサーバーにホームページを置き(使用料月々2,500円)、大会プログラムを公開中である。今後内容を充実させるにあたり、経費および維持費用が必要となる。
- ・ホームページは、原則的に会員相互の情報交換の場ではなく、外部に向けての情報提供の場とする方向で考えている。

(G) 日本学術会議語学・文学研究連絡委員について

学会選出の委員田村すず子氏より、本年九月で任期を終了するにあたって、その活動について報告があった。

[審議事項]

- (1) 選挙管理委員会委員の選出を行い、荻野綱男、坂本比奈子、中川 裕(千葉大)、長嶋善郎、林 徹、早津恵美子、原口庄輔、日比野潤子の各氏(計8名)を選出し、また次点として井出祥子氏を選出した。
- (2) 日本学術会議語学・文学研究連絡委員の選出を行い、上野善道氏が選出された。
- (3) 平成11年度の決算報告があり、了承された。これは、2000年4月21日、会計監査委員、湯川恭敏・角田太作両氏により、適正であると認められたものである。(別表1参照)
- (4) 平成12年度予算が審議の末、決定した。(別表2参照)
- (5) 大会運営委員会発足を受け、大会運営委員会検討小委員会の廃止が決定された。
- (6) 日本言語学会第121回大会について、大会実行委員長清水克正氏より説明があった。(報告事項(8)(A)参照)

- (7) 報告事項 (1) および審議事項 (2) を受けて、日本学会議会員、および関連各委員について、学会から会員等を出すことの意義や、現行の推薦方法の問題点について議論が行われた。

〔別表1〕 平成11年度 日本言語学会決算
 自 平成11年4月 至 平成12年3月 (単位 円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|-------------|------------|-------------------------------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 会 費 | 13,864,500 | 刊 行 費 | 4,980,675 |
| 雑 誌 売 上 | 883,400 | 発 送 費 | 399,970 |
| 文 部 省 補 助 金 | 510,000 | 編 集 費 | 423,370 |
| 預 金 金 利 | 23,434 | 事 務 委 託 費 | 3,989,160 |
| 大 会 関 係 収 入 | 1,658,000 | 大 会 関 係 費 | 2,742,927 |
| 雑 収 入 | 343,785 | 委 員 会 費 | 214,212 |
| 積立からの繰越金 | 1,600,000 | 常 任 委 員 会 費 | 561,121 |
| 夏 期 講 座 収 入 | 7,946,079 | 危 機 言 語 小 委 員 会 | 32,630 |
| | | 夏 期 講 座 検 討 小 委 員 会 費 | 0 |
| | | Pacific Rim Institute 検 討 小 委 員 会 費 | 52,579 |
| | | C I P L 負 担 金 | 100,000 |
| | | 選 挙 関 係 費 | 542,702 |
| | | 名 簿 作 成 費 | 1,941,690 |
| | | 夏 期 講 座 経 費 | 7,747,524 |
| | | 危 機 言 語 シ ン ポ ジ ウ ム 費 | 282,600 |
| | | 夏 期 講 座 積 立 金 | 750,000 |
| | | 国 際 関 係 積 立 金 | 800,000 |
| | | 危 機 言 語 プ ロ ジ ェ ク ト 積 立 金 | 500,000 |
| | | 記 念 大 会 積 立 金 | 500,000 |
| | | 通 信 費 | 308,490 |
| | | 事 務 局 費 | 410,056 |
| | | 消 耗 品 費 | 153,825 |
| | | 予 備 費 | 100,000 |
| | | 雑 費 | 21,651 |
| 収 入 合 計 | 26,829,198 | 支 出 合 計 | 27,555,182 |
| 前 期 繰 越 | 4,773,439 | 次 期 繰 越 金 | 4,047,455 |
| 計 | 31,602,637 | 計 | 31,602,637 |

◇収入内訳(単位 円)

会費

| | |
|----------|------------|
| 国内個人会員会費 | 12,355,000 |
| 国内団体会員会費 | 948,500 |
| 国内維持会員会費 | 110,000 |
| 国内賛助会員会費 | 40,000 |
| 在外個人会員会費 | 385,500 |
| 在外団体会員会費 | 25,500 |
| 合 計 | 13,864,500 |

雑誌売上

| | |
|-----------------|---------|
| 三省堂書店 | 63,000 |
| 松香堂書店(取り次ぎ業務委託) | 455,400 |
| 丸 善 | 220,500 |
| その他書店 | 50,400 |
| バックナンバー売上 | 94,100 |
| 合 計 | 883,400 |

文部省補助金 510,000

預金金利 23,434

大会関係収入

| | |
|------------------|-----------|
| 118回大会出店料 | 90,000 |
| 119回大会出店料 | 50,000 |
| 111回～117回大会予稿集売上 | 109,500 |
| 118回大会予稿集売上 | 724,000 |
| 119回大会予稿集売上 | 684,000 |
| 合 計 | 1,658,000 |

雑収入

| | |
|-------------|---------|
| 114号抜刷増刷代 | 7,935 |
| 115号抜刷増刷代 | 40,800 |
| 換金手数料 | 4,000 |
| 119回大会より寄付金 | 50,000 |
| 広告料(会員名簿) | 240,000 |
| Airmail 送料 | 1,050 |
| 合 計 | 343,785 |

*換金手数料は、在外会員からの小切手換金料としての収入

積立金からの繰越金

| | |
|----------------|-----------|
| 平成10年度選挙関係費積立金 | 300,000 |
| 平成10年度名簿作成費積立金 | 500,000 |
| 平成9年度選挙関係費積立金 | 300,000 |
| 平成9年度名簿作成費積立金 | 500,000 |
| 合 計 | 1,600,000 |

夏期講座収入

| | |
|-------|-----------|
| 参加費 | 7,932,759 |
| 出店料 | 10,000 |
| コピー料金 | 3,320 |
| 合 計 | 7,946,079 |

◇支出内訳(単位 円)

刊行費

| | 116号(188p.) | 117号(216p.) | 計(404p.) |
|-----|-------------|-------------|-----------|
| 印刷費 | 2,289,840 | 2,630,880 | 4,920,720 |
| 抜刷代 | 28,560 | 31,395 | 59,955 |
| 合 計 | 2,318,400 | 2,662,275 | 4,980,675 |

*割付・校正料は印刷費に含む

発送費 399,970

『言語研究』送料 (三省堂への送付料も含む・追加送料は含まない)

編集費

| | |
|--------|---------|
| 通信費 | 24,100 |
| アルバイト代 | 81,000 |
| 旅費 | 238,500 |
| 会議費 | 79,770 |

合 計 423,370

事務委託費

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

| | |
|-------|-----------|
| 事務委託費 | 3,799,200 |
| 消費税 | 189,960 |

合 計 3,989,160

大会関係費

| | 第118回 | 第119回 | 計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| プログラム印刷費 | 136,500 | 136,500 | 273,000 |
| 出欠葉書印刷費 | 22,050 | 22,050 | 44,100 |
| プログラム発送費 | 189,280 | 193,920 | 383,200 |
| 大会費 | 411,629 | 356,082 | 767,711 |
| 予稿集印刷 | 531,300 | 623,616 | 1,154,916 |
| | (650部発行) | (600部発行) | |
| 講師謝金 | 50,000 | 70,000 | 120,000 |
| 合 計 | 1,340,759 | 1,402,168 | 2,742,927 |

委員会費

| | |
|-----|---------|
| 通信費 | 30,710 |
| 会議費 | 183,502 |

合 計 214,212

常任委員會費

| | |
|---------------|-----------|
| 常任委員會費 | (439,484) |
| 通信費 | 10,980 |
| 旅 費 | 337,180 |
| 會議費 | 91,324 |
| 大会運営委員會檢討小委員會 | (121,637) |
| 通信費 | 0 |
| 旅 費 | 104,680 |
| 會議費 | 16,957 |

合 計 561,121

危機言語小委員會

| | |
|-----|--------|
| 通信費 | 2,800 |
| 會議費 | 29,830 |

合 計 32,630

夏期講座檢討小委員會

| | |
|-----|---|
| 通信費 | 0 |
| 旅 費 | 0 |
| 會議費 | 0 |

合 計 0

Pacific Rim Institute 檢討小委員會

| | |
|-----|--------|
| 通信費 | 0 |
| 旅 費 | 36,560 |
| 會議費 | 16,019 |

合 計 52,579

C I P L 負擔金 100,000

選挙関係費

| | |
|------------------|---------|
| 通信費 | 207,920 |
| 選挙管理委員會會議費 | 22,932 |
| 選挙管理委員會旅費 | 63,000 |
| 選挙人名簿, 投票依頼状等印刷費 | 248,850 |

合 計 542,702

名簿作成費

| | |
|-------------|-----------|
| 発送費, 通信費 | 659,640 |
| 調査用紙, 名簿等印刷 | 1,282,050 |

| | |
|-----|-----------|
| 合 計 | 1,941,690 |
|-----|-----------|

夏期講座経費

| | |
|----------------|-----------|
| セミナーハウス利用料 | 3,618,972 |
| セミナーハウス食事代 | 1,885,747 |
| 講師謝礼 | 900,000 |
| 講師旅費 | 164,230 |
| アルバイト代 | 940,000 |
| 会議費 | 61,635 |
| 大型バス貸切料 | 63,000 |
| 通信費 | 33,045 |
| 文具費 | 20,055 |
| 参加費返金 (キャンセル時) | 60,840 |

| | |
|-----|-----------|
| 合 計 | 7,747,524 |
|-----|-----------|

危機言語シンポジウム費

| | |
|-------------------|---------|
| チラシ, 予稿集, ワッペン印刷費 | 117,600 |
| 講師謝金, 人件費 | 165,000 |

| | |
|-----|---------|
| 合 計 | 282,600 |
|-----|---------|

夏期講座積立金 750,000 (定期Bへ)

国際関係積立金 800,000 (定期Bへ)

危機言語プロジェクト積立金 500,000 (定期Bへ)

記念大会積立金 500,000 (定期Bへ)

通信費

| | |
|-----------------------|---------|
| 切手購入費 | 93,413 |
| 国際FAX料金・銀行FAX料金 | 18,022 |
| 会費請求・督促状送付, 広告料請求書送付 | 37,740 |
| 小切手換金手数料・カード手数料・送金手数料 | 22,845 |
| 『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー発送 | 28,240 |
| 発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料 | 103,620 |
| その他(文部省提出書類送付等) | 4,610 |

合 計

308,490

事務局費

| | |
|--------|---------|
| 通信費 | 62,580 |
| アルバイト代 | 164,000 |
| 旅 費 | 126,210 |
| 会議費 | 57,266 |

合 計

410,056

消耗品費

| | |
|-----------------|---------|
| 会費納入のお願い(印刷費含む) | 12,075 |
| 窓付き封筒(印刷費含む) | 141,750 |

合 計

153,825

予備費

| | |
|---------------------|---------|
| 第12回国際応用言語学会世界大会へ寄付 | 100,000 |
|---------------------|---------|

合 計

100,000

雑費

| | |
|----------------|--------|
| 徳川先生告別式花代, 弔電代 | 21,651 |
|----------------|--------|

日本語学会
平成11年度予算・実績対照表
収入

(単位 円)

| 科 目 | 予 算 | 実 績 | 対予算差異 |
|----------|------------|------------|-----------|
| 会 費 | 13,500,000 | 13,864,500 | 364,500 |
| 雑 誌 売 上 | 1,500,000 | 883,400 | △ 616,600 |
| 文部省補助金 | 600,000 | 510,000 | △ 90,000 |
| 預 金 金 利 | 20,000 | 23,434 | 3,434 |
| 大会関係収入 | 1,500,000 | 1,658,000 | 158,000 |
| 雑 収 入 | 50,000 | 343,785 | 293,785 |
| 積立からの繰越金 | 1,600,000 | 1,600,000 | 0 |
| 夏期講座収入 | 0 | 7,946,079 | 7,946,079 |
| 収 入 合 計 | 18,770,000 | 26,829,198 | 8,059,198 |
| 前 期 繰 越 | 4,773,439 | 4,773,439 | 0 |
| 合 計 | 23,543,439 | 31,602,637 | 8,059,198 |

△=実績-予算

支出

(単位 円)

| 科 目 | 予 算 | 実 績 | 対予算差異 |
|-------------------------------------|------------|------------|------------|
| 刊 行 費 | 5,500,000 | 4,980,675 | 519,325 |
| 発 送 費 | 450,000 | 399,970 | 50,030 |
| 編 集 費 | 600,000 | 423,370 | 176,630 |
| 事 務 委 託 費 | 3,990,000 | 3,989,160 | 840 |
| 大 会 関 係 費 | 3,100,000 | 2,742,927 | 357,073 |
| 委 員 会 費 | 200,000 | 214,212 | △ 14,212 |
| 常 任 委 員 会 費 | 500,000 | 561,121 | △ 61,121 |
| 危 機 言 語 小 委 員 会 費 | 150,000 | 32,630 | 117,370 |
| 夏 期 講 座 検 討 小 委 員 会 費 | 150,000 | 0 | 150,000 |
| Pacific Rim Institute 検 討 小 委 員 会 費 | 250,000 | 52,579 | 197,421 |
| C I P L 負 担 金 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 選 挙 関 係 費 | 900,000 | 542,702 | 357,298 |
| 名 簿 作 成 費 | 1,500,000 | 1,941,690 | △ 441,690 |
| 夏 期 講 座 経 費 | 1,000,000 | 7,747,524 | △6,747,524 |
| 危 機 言 語 シ ン ポ ジ ウ ム 費 | 1,000,000 | 282,600 | 717,400 |
| 夏 期 講 座 積 立 金 | 750,000 | 750,000 | 0 |
| 国 際 関 係 積 立 金 | 800,000 | 800,000 | 0 |
| 危 機 言 語 プ ロ ジ ェ ク ト 積 立 金 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 記 念 大 会 積 立 金 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 通 信 費 | 350,000 | 308,490 | 41,510 |
| 事 務 局 費 | 450,000 | 410,056 | 39,944 |
| 消 耗 品 費 | 300,000 | 153,825 | 146,175 |
| 予 備 費 | 400,000 | 100,000 | 300,000 |
| 雑 費 | 103,439 | 21,651 | 81,788 |
| 支 出 合 計 | 23,543,439 | 27,555,182 | △4,011,743 |
| 次 期 繰 越 | | 4,047,455 | 4,047,455 |
| 合 計 | 23,543,439 | 31,602,637 | △8,059,198 |

△=予算-実績

資産勘定

(単位 円)

| 借 方 | 金 額 | 貸 方 | 金 額 |
|-----------|--------------|------|------------|
| 本部事務局 | (16,435,081) | 前受会費 | (371,500) |
| 現金 | 198,331 | 国内個人 | 301,000 |
| 第一勸業銀行 普通 | 297,278 | 国内団体 | 7,000 |
| 定期A | 7,000,000 | 在外個人 | 55,000 |
| 定期B | 8,700,000 | 在外団体 | 8,500 |
| 郵便振替貯金 | 213,972 | 積立金 | 8,700,000 |
| カード | 25,500 | 未払金 | 3,527,825 |
| 事務局 | (13,144) | 次期繰越 | 4,047,455 |
| 事務局口座 | 6,601 | | |
| 常任委員会口座 | 6,543 | | |
| 夏期講座口座 | 198,555 | | |
| 計 | 16,646,780 | 計 | 16,646,780 |

*未払金は、当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目

*平成11年度決算の未払金は『言語研究』第117号の印刷費、発送代、第116、117号抜刷印刷代、事務委託費2・3月分

第一勸業銀行 定期B

(単位 円)

| | |
|---------------------|-----------|
| 平成11年度夏期講座積立金 | 750,000 |
| 平成11年度国際関係積立金 | 800,000 |
| 平成11年度危機言語プロジェクト積立金 | 500,000 |
| 平成11年度記念大会積立金 | 500,000 |
| 平成10年度夏期講座積立金 | 750,000 |
| 平成10年度国際関係積立金 | 750,000 |
| 平成10年度記念大会積立金 | 250,000 |
| 平成9年度積立金 | 2,200,000 |
| 平成8年度積立金 | 2,200,000 |
| 合 計 | 8,700,000 |

〔別表2〕 平成12年度 日本言語学会予算
自 平成12年4月 至 平成13年3月

(単位 円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|--------|------------|-------------------------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 会費 | 13,500,000 | <一般会計> | |
| 雑誌売上 | 1,500,000 | 刊行費 | 5,500,000 |
| 文部省補助金 | 1,200,000 | 発送費 | 450,000 |
| 預金金利 | 20,000 | 編集費 | 600,000 |
| 大会関係収入 | 1,500,000 | 事務委託費 | 3,990,000 |
| 雑収入 | 50,000 | 大会関係費 | 3,100,000 |
| | | 委員会費 | 200,000 |
| | | 常任委員会費 | 600,000 |
| | | 大会運営委員会費 | 600,000 |
| | | 危機言語小委員会費 | 150,000 |
| | | 夏期講座検討小委員会費 | 150,000 |
| | | Pacific Rim Institute 検討小委員会費 | 150,000 |
| | | 学会ホームページ作成費 | 300,000 |
| | | C I P L 負担金 | 100,000 |
| | | 危機言語シンポジウム費 | 500,000 |
| | | 通信費 | 350,000 |
| | | 事務局費 | 600,000 |
| | | 消耗品費 | 300,000 |
| | | 予備費 | 100,000 |
| | | 雑費 | 27,455 |
| | | <特別会計> | |
| | | 夏期講座経費 | 1,550,000 |
| | | <積立金> | |
| | | 選挙積立金 | 300,000 |
| | | 名簿作成積立金 | 700,000 |
| | | 夏期講座積立金 | 400,000 |
| | | 国際関係積立金 | 500,000 |
| | | 危機言語プロジェクト積立金 | 200,000 |
| | | 記念大会積立金 | 400,000 |
| 収入合計 | 17,770,000 | | |
| 前期繰越 | 4,047,455 | | |
| 計 | 21,817,455 | 計 | 21,817,455 |

第120回大会

期 日 2000年6月17日(土)~18日(日)

会 場 千葉大学

第1日(6月17日)

公開講演会・総会 午後1時30分~6時20分

開会の辞

会 長

開催校挨拶

倉智恒夫

会長就任講演

rとlの音韻論

早田輝洋

シンポジウム

言語学は少数言語の維持・復興に寄与できるのか?

司 会

中川 裕

基調報告者

金子 亨

田中克彦

コメンテーター 角田太作

スチュアート ヘンリ

会員総会

会員懇親会 午後6時30分~8時30分

第2日(6月18日)

研究発表 午前10時~午後3時50分

A 会場

司会 原口 庄輔

(A 1) 10:00~ 統語境界の表示に関わる韻律的特徴 宇佐美洋

—タイ語・カンボジア語における音節可塑性の比較—

(A 2) 10:30~ 幼児のアクセント規則形成の過程 白勢彩子

窪 園 晴夫

桐 谷 滋

(A 3) 11:00~ 幼児の心内辞書におけるかな文字の獲得と 大竹孝司

モーラの認識

司会 窪 園 晴夫

(A 4) 1:00~ Optimality Theoretic Account for Kan Sasaki

the Distribution of Pronominal Daniela Caluianu

Clitics in Romanian

(A 5) 1:30~ Nivkh consonant alternation does not 白石英才

involve hardening

司会 田端 敏幸

(A 6) 2:20~ ドム語(バプア・ニューギニア)のトーン 千田俊太郎

(A 7) 2:50~ 延辺朝鮮語のアクセントに関する考察 朴 永梅

- (A 8) 3:20~ 韓国語尚州方言のアクセント体系 李 連珠
- B 会場
- 司会 久保 智之
- (B 1) 10:00~ 満洲語文語における「青い」について 結 城 佐 織
- (B 2) 10:30~ 中国・新疆ウイグル自治区南部で話される
「エイヌ語」の語彙の特徴 林 徹
- (B 3) 11:00~ 現代キルギス語の使役文 大 崎 紀 子
- 司会 佐藤 昭裕
- (B 4) 1:00~ 上ソルブ語クロストヴィッツ方言の名詞と
動詞の双数形 笹 原 健
- (B 5) 1:30~ 現代グルジア語の所有動詞の助動詞的用法 児 島 康 宏
- 司会 庄垣内正弘
- (B 6) 2:20~ ルワンダ語の関係節 湯 川 恭 敏
- (B 7) 2:50~ テトウン・ブラサ語 (東ティモール) の
焦点表示 大 野 仁 美
- (B 8) 3:20~ オリヤ語の関係代名詞の分布から
照応規則の一つにかんして分かること 山 部 順 治
- C 会場
- 司会 町田 健
- (C 1) 10:00~ 話し手にとっての事実, 日常生活の中の
事実 渡 部 学
- (C 2) 10:30~ 「カラ」と「ノデ」の多義性 田 中 美 和 子
- (C 3) 11:00~ 接続助詞ウチニの再考察
—認知意味論の観点から 金 容 澤
- 司会 金水 敏
- (C 4) 1:00~ 現場指示用法の指示詞と無助詞 樋 口 功
- (C 5) 1:30~ 中距離のソをめぐる 秋 月 高 太 郎
- 司会 菊地 康人
- (C 6) 2:20~ 「どんどん」と述語 小 西 正 人
- (C 7) 2:50~ 「他動性」と古代日本語のヲ格標示 伊 土 耕 平
- (C 8) 3:20~ 補助動詞と文構造の階層性 酒 井 弘
- 動詞テ形+アル/イルと時の 李 秀 敏
- 副詞の関係を手がかりに— 貝 田 マルシア 明美
- 豊 田 文 隆
- 南 得 鉉

◦D 会場

司会 西光 義弘

- (D 1) 10:00~ 会話に見られる「なんか」と文法化： 内田 ら
なぜ「なんか」は「前置き表現」になりえるのか？
- (D 2) 10:30~ 接尾辞「ぼい」に潜むカテゴリー化の 尾谷 昌 則
メカニズム—「女っぼい人」は女ですか？—
- (D 3) 11:00~ 水のメタファー 鍋島 弘治朗
—日本語の比喩研究における方法論に関する一考察—

司会 松本 曜

- (D 4) 1:00~ プロセス制御スキーマによるアスペクト 岡 智 之
合成モデル～アスペクト補助動詞構文の
体系化に向けて～
- (D 5) 1:30~ 前置詞、後置詞などの機能語が表す 山口 和 之
意味変化のメカニズムとその制約

司会 松村 一登

- (D 6) 2:20~ ロシア語副動詞形式の談話的特徴 北 上 光 志
- (D 7) 2:50~ モンゴル語の副動詞構文の統語的特徴と 橋 本 邦 彦
再帰所有接尾辞
- (D 8) 3:20~ 現代スウェーデン語の再帰代名詞について 當 野 能 之

◦E 会場

司会 長谷川信子

- (E 1) 10:00~ NQ-Scrambling in Japanese 山 下 秀 哲
- (E 2) 10:30~ Do Null Expletive Subjects Really Exist 本 田 謙 介
in Japanese?
- (E 3) 11:00~ Japanese Phrase Structure Viewed Edith Aldridge
through *Hentai Kambun*

司会 阿部 泰明

- (E 4) 1:00~ 先行詞内削除と数量詞上昇 木 村 宣 美
- (E 5) 1:30~ On the interpretation of sentence 小 泉 有 紀 子
adverbials in English: their truth-conditional status

司会 杉岡 洋子

- (E 6) 2:20~ 間接話法の被伝達部における法助動詞 岡 本 芳 和
must の意味解釈—「視点」という観点から—
- (E 7) 2:50~ A Prosodic Approach to the “Heaviness” 塩 原 佳 世 乃
Effect
- (E 8) 3:20~ 心理述語文におけるスコープについて 藤 巻 真

◇ 退 会

国内個人会員 72名

在外個人会員 6名

国内団体会員 3件

◇ 本誌は、文部省平成12年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。